能代の境界を訪ねて（檜山編）

市民リポーター　藤島良明、幸坂マチ子

ふるさと紹介 250

これまでに２回リポートした能代の境界。15年の鳥形地区、16年の鶴形地区に続き、今回は二ツ井町・山本町と接する檜山地区を訪ねてみました。

大森地区

山本町との境界に当たる大森地区。ここでは、今年85歳になる元自治会長の落合仁市郎さんにお話を伺いました。

現在26世帯、60人ぐらいが暮らす大森地区は、ほとんどの家が稲作中心の農業を営んでいて、周りには田園風景が広がります。

檜山地区は、もともと檜山町という単独の町でしたが、昭和30年、能代市に編入合併されました。その後も、昭和58年に境界を決めるまで、隣接する山本町志戸橋地区とは山や林を共同で使っていたとのことです。

樹齢３００年以上の大杉

集落の奥へと延びる山道は、昔は下岩川(山本町)あたりまで続いていたそうです。その道は達子地区(山本町)の人々にとって、能代への近道だったということです。

◎大森地区を歩く

落合さんの案内で、実際に大森地区を歩いてみました。

樹齢３００年以上の大杉がある大森八幡神社。かつてはかやぶき屋根だったのですが、老朽化が進み、昭和53年に建て替えられたそうです。その中には、かつての神社の柱がそのままの形で残されていました。

大森八幡神社

建て替え当時の苦労話なども聞かせていただき、神社一つにも物語があるのだと感じました。

檜山安東氏のとりで跡、立山(かつては館山)にも登ってみました。赤松林に囲まれた急な石段を登ると、頂上からは能代市が一望できました。

山本町との境界にあるため池(菅ノ沢堤)は、そこから流れる水が山本町で農業用水として利用されています。そのため、ため池は能代市にあるのですが山本町が建設・管理しています。長い年月と多額の費用をかけて大工事が行われたそうで、田んぼにとって水がいかに大事なものであるかを感じました。

ため池（菅ノ沢堤）